

明治初期における伊香郡の小学校

木全 清博（元滋賀大学）

1 江北図書館資料と伊香郡の教育史研究

滋賀県の湖北地域の教育史研究は、ほとんど未開拓といってよい。市町村史で『長浜市史』、『余呉町誌』以外が未刊行であり、教育史・学校史の基礎資料が収集され、分析されていないからである。学校沿革史や学校日誌、学校・学区に関する町村の区有文書、江北図書館に残る伊香郡役所の学事資料類の検討が必要となる。

これまで江北図書館資料を使った先行研究に、八鍬友宏「滋賀県伊香郡における 1898 年の識字率」（『新潟大学教育学部紀要』第 34 巻第 1 号 1992 年）をみるだけである。江北図書館の学事・教育史資料を活用して、湖北地域や滋賀県の教育史を解明していくことができる。

伊香郡の教育史研究の重要性として、

1 滋賀県教育史における明治初期研究の解明に役立つ。明治 4-5 年の設立・開校 5 校は、長浜県→犬上県管轄下の小学校であった。なぜか。

2 長浜県・犬上県の教育政策は、だれがどのように進めたか？ 地域の名望家層は、近代の学校設立（人民共立）をどのように行ったか。

3 木之本、高月、余呉の北国街道筋の町村と山村・漁村地域においては、学校設立にどのような違いがあるのか。商業的な町場、農村地域の養蚕農家地域、山村・漁村の学校と子どもは、どのような実態であったか。単級学校や複式学校の教授法は、どうであったか。

2 今回の報告—明治初期における伊香郡の小学校の沿革史

今回の報告では、明治初期における伊香郡西浅井郡の小学校教育について、

（1）近代学校前史—江戸時代から明治 8 年までの寺子屋、（2）明治初期（明治 10 年代）の伊香郡の小学校の歴史について、明治 10～20 年代の学事統計データと木之本小学校資料

の学校沿革史を中心に分析した。旧木之本町、旧高月町、旧余呉町、旧西浅井町の4町の各小学校の変遷について、1 創立年、2 校舎・教場、3 教員数—資格別の変遷、4 生徒（子ども）を考察した。

とくに、4 生徒については、A 学齢人員・在籍生徒・出席生徒・日々出席生徒平均、B 在籍生徒の年限（年数）、C 自己の氏名を自記し得る者・し得ない者のデータを分析したが、この時期の数量データの信憑性については慎重に扱わねばならないが、明治初期における伊香郡西浅井郡の小学校の実態の一端をつかむことはできると考えた。

今回は徹底的に郡内小学校のデータを読み込んだ。残した課題として、1 広瀬地区の小学校の資料の所在、学事関係資料の未発見。2 伊香郡の小学校調査で、余呉小・片岡小、西浅井の永原小、塩津小が未調査である。3 江北図書館資料中の『伊香郡報』中の学事記事の読み込みは、未調査である。

最後に（3）教先学校（現木之本小学校）の沿革について『木之本尋常小学校沿革史第壹号』の学校沿革史資料を分析した。第1次の原典資料からの写しが忠実に書き込まれた資料で、第2次資料とはいえ、資料的価値が高いものである。本資料は編纂した明治30年代の橋本岩記校長の力量によるものか、信頼性をおくことが出来るものと考えてここで使用した。